

# RPSJ NETWORK

Railway Preservation Society of Japan

日本鉄道保存協会 会報  
2004 MARCH 第8号

## 平成15年度 日本鉄道保存協会総会の開催



梅小路蒸気機関車館の扇形庫前で

平成15年度の日本鉄道保存協会の総会を9月18・19日に西日本旅客鉄道(株)の「交通科学博物館」で開催した。開催地の西日本旅客鉄道(株)では、大阪・弁天町の交通科学博物館や京都の梅小路蒸気機関車館などでC62形2号をはじめ、数多くの歴史的車両を動態及び静態保存をしているほか、営業路線である山口線では「SL山口号」を、北陸線では「SL琵琶湖号」を動態保存している。一昨年は、0形新幹線の先頭部分を姉妹提携した英国・ヨーク国立鉄道博物館に寄贈しており、昨年7月には敦賀第2機関区で展示保存されていた交流電気機関車ED70を完全修復し、末永く保存することを目的に(株)日本ナショナルトラストへ寄贈するなど社をあげて積極的に歴史的車両の保存に取り組んでいる。また、社内報で身近にある駅舎や橋梁、トンネルなどを取り上げ、社員の鉄道文化財への意識を高める活動も推進している。

まず、「交通科学博物館」に集合した参加者は、館内の野外展示場のD51 2・C62 26・キハ81 3や湘南形80系電車や戦前型の貴重な寝台車・食堂車などをガイドの案内付きで見学を行った。昨年、野外展示スペースの改修が行われ、車両は大きな屋根に覆われ、雨・



RPSJ NETWORK 第8号



総会の挨拶



分科会方式による意見交換会

風から守られて展示されている。静態保存の理想ともいえる形での保存に、鉄道車両の保存へのなみなみならぬ意気込みが感じられた。

その後、ホールに場所を移し、平成15年度総会をおこなった。総会には、顧問の青木栄一氏、小池滋氏、松澤正二氏、当財団の増田浩三担当理事をはじめ、全国11団体から24名、賛助会員7名、オブザーバー15名が出席した。まず、「鉄道ジャーナル社」の加盟を承認し、その後、平成14年度の事業・収支・監査の報告と平成15年度の事業計画・収支予算などの審議をおこなった。平成14年度事業では、真岡線SL運行協議会での総会の開催のほか、当協会の加盟団体紹介パンフレットの作成、JTB出版発行の「SL復活物語」出版への協力などを実施した。平成15年度の事業では当協会の組織強化のためのプロジェクトを発足させることとし、歴史的車両の静態保存をしている団体にも加盟を呼びかけ、会員の拡充をおこなうことが決まった。なお、次回の総会開催場所は候補地と調整することとした。総会後は、初めて分科会方式による意見交換会をおこなった。「歴史的車両の修復技術の伝承」と「歴史的車両の動態保存の社会性」の2つのテーマで、それぞれプレゼンターとコーディネーターが進行役をつとめた。「歴史的車両の修復技術の伝承」では、サッパボイラ取締役の颯波基一氏よりボイラー修理における技術の伝承の難しさや新しい技術を用いての修理方法などの話があり、また「歴史的車両の動態保存の社会性」では、加悦観光協会事務局長の篠崎隆氏より歴史的車両の動態保存を社会性のあるものにするため

にはどうしたらいいかなどのお話があり、それに対して参加者は活発な意見を交換した。

翌19日はまず、京都にある「梅小路蒸気機関車館」の見学をおこなった。日本の動態保存SLのメッカともいわれる「梅小路蒸気機関車館」には、転車台を取り囲む現存する最古（1914年）の鉄筋コンクリート造りの大型扇形庫に、大正・昭和時代に活躍した歴史的な国鉄時代のSL18両が展示保存されている。普段は入れない庫内にも案内いただき、修理中の8630号機の動輪磨きなども見学をさせていただいた。その後、貸切りバスで亀岡市へ向かい、JR馬堀駅近くの「トロッコ亀山駅」から嵯峨野観光鉄道に乗り、保津川沿いをトロッコ列車に揺られながら「トロッコ嵯峨野駅」までの約26分の短い旅を楽しんだ。最後に希望者で長浜市にある(財)日本ナショナルトラストのヘリテージセンター「長浜鉄道文化館・北陸線電化記念館」の視察もおこなった。今回は、JR西日本が保存する歴史的車両の静態及び動態保存の現場をいろいろと視察することができ、各団体において歴史的車両の保存のあり方考える上で、大変参考になる有意義な2日間だった。



長浜鉄道文化館の見学

(事務局松本恵子)

## 加盟団体からのお知らせ

### ★ 小樽交通記念館 ★

#### — 小樽交通記念館オリジナル

#### 「しづか號」チョコQ販売開始—

小樽交通記念館で人気の展示車両、明治の開拓時代に北海道で活躍したアメリカ製蒸気機関車「しづか號」がチョコQになり、平成16年4月の開館から売店などで販売することになりました。

「しづか號」は北海道で最初に走った義経号や弁慶号と同じ形式の蒸気機関車で1884（明治17）年アメリカのポーター社で製造されました。火の粉止めの付いた煙突や車両先端のカウキャッチャー（障害物よけ）、鐘などが特徴のアメリカンスタイルでチョコQながらその特徴もうまく再現され美しい仕上がりとなっています。

通信販売も取扱っています。料金等の詳細については、同館 0134-33-2523 までお問い合わせ下さい。

URL:<http://www.otarukoutsukinenkan.com>



### ★ 真岡線 SL 運行協議会 ★

#### — 「SLもおか運行10周年記念号」

#### 運行のお知らせ —

真岡鐵道の「SLもおか」は、平成6年3月27日にC1266号が復活運行し、今春10周年の記念の年

を迎えます。その間、沿線の方々や、多くのSLファンのご声援を頂き、C11 325の復活運行、全国SLサミットの開催、様々なイベント列車の運行などに取り組んできました。

そこで、運行10周年を迎えた今年、真岡鐵道と真岡線SL運行協議会では、JR小山駅からの「SLもおか運行10周年記念号」を運行します。

この機会に、SLの力強い走りと、車窓から広がるふるさとの原風景をお楽しみください。



満開の桜のなかを  
走るC12 66号

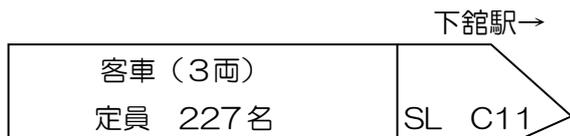
◆運行日 平成16年3月27日(土)・28日(日)

◆運行区間 小山駅～下館駅～茂木駅  
(上りは下館駅止まり)

◆運行時刻

下り列車		上り列車		JR水戸線
小山駅	8:42発			
結城駅	9:12発			
下館駅	10:36発	茂木駅	14:29発	真岡鐵道
折本駅	10:44発	市塙駅	14:44発	
久下田駅	10:52発	多田羅駅	14:50発	
寺内駅	10:59発	七井駅	14:56発	
真岡駅	11:12発	益子駅	15:03発	
西田井駅	11:22発	西田井駅	15:12発	
益子駅	11:31発	真岡駅	15:29発	
七井駅	11:37発	寺内駅	15:36発	
多田羅駅	11:42発	久下田駅	15:43発	
市塙駅	11:51発	折本駅	15:51発	
茂木駅	12:02着	下館駅	15:58着	

◆編 成



※下館駅～茂木駅間は C12 が運行します。

(C11 は真岡駅で切り離し)

- ◆イベント 運行当日は、歓迎イベントを予定しています。
- ◆料 金 乗車券のほかに、座席指定券が必要です。(上り列車は通常料金となります)
- ◆発 売 日 座席指定券は、乗車日の1ヶ月前から発売いたします。
- ◆発 売 所 座席指定券は、JR 東日本みどりの窓口、びゅうプラザで販売いたします。
- ◆問い合わせ先

真岡鐵道株式会社           Tel 0285-84-2911  
 真岡線 SL 運行協議会       Tel 0285-82-9151



C11325 号

★ 財団法人東日本鐵道文化財団 ★  
 —旧新橋停車場『鐵道歴史展示室』—

2003 (平成 15) 年 4 月 10 日、「旧新橋停車場」をオープンしました。建物内には、鐵道の発祥の地としての賑わいを演出して「鐵道歴史展示室」を併設しました。鐵道あるいは汐留にちなんだ様々な歴史、文物を紹介しています。入場者の多

い日は、3,000 人を超える日もありました。

1 階が常設展示室、2 階が企画展示室となっています。企画展示コーナーもさることながら、2 企画展示室には、プラズマディスプレイを使い放映している「資料映像コーナー」があり、その解説音響とともに、来館者に旧新橋停車場の時代を視覚と聴覚で体感でき、いつも賑わっています。現在以下の 3 本 (各 5~6 分) を見ることができます。

- ①「鐵道のあけぼの」
- ②「陸蒸気で横浜へ」
- ③「汐留のあゆみ」

さらにあまり知られていませんが、同展示室には「旧新橋停車場データベース」と称した日本の鐵道開業当時のエピソード、うら話などが検索できるコンピュータを駆使したコーナーもあります。例えばこんな話もさがすことができます。「食堂、新聞売り、人力車」、「廢刀を促した鐵道建設」、「実現しなかった菊池博士の復元計画」など。いかがですか？皆様のご来館を待っています。

開館時間：11:00~18:00 (入館は閉館の 15 分前まで)

入場料：無料

休館日：月曜日 (但し、祝祭日の場合は開館、翌日休館)・年末年始・展示替え期間中

問合せ先：旧新橋停車場 鐵道歴史展示室

〒105-0021 東京都港区東新橋 1-5-3

Tel 03-3572-1872



展示室内のようす  
**RPSJ NETWORK 第 8 号**

★ 虹の郷 ★

—車両および軌道の修復について—

☆車両修理

CITY OF BIRMINGHAM (蒸気機関車)

エンジンカムシャフトタイミングベルトを交換(使用時間 4,600 時間)、オイルモーター作動油を交換します。パーキングブレーキエアシリンダー故障、英国に部品発注します。

☆客 車

・外壁修理

腐食した合板の壁を撤去し、FAP を貼り付けて防水した合板を取り付ける。壁面防水箇所を点検、不良箇所を修理する。

・構造材修理

柱、梁、桁接合部防水不良により雨水が浸入、腐食した箇所を削り取りその形状に合わせて木材を加工し接着する。

☆軌道

・マクラギ交換

従来は木製の在来線並マクラギを半分に切断、切断面に防腐剤を塗り使用していたが、切断面中央からの腐食が進行し 5 年で朽ちてしまう物がある。また、切断面には割れ防止のリングが打ち込んでないために、割れてしまう。そこで、発注先と協議し、15 インチ専用の木製注入マクラギを製造してもらった。その分単価は上がったが、並マクラギを切断し防腐剤を塗布する作業手間賃を加えて比較すると安くなった。



★ 大井川鐵道 ★

—SL かわね路号 金谷～千頭 (静岡県) —

運転車両: 蒸気機関車 C108 号・C11190 号・C11227 号・C11312 号・C5644 号

客車 スハ 42・ハ 47・ハ 35・ハハ 33 (旧型客車 16 両)

運転期間: 通年運転、ただし原則として 12 月上旬から 3 月中旬の火曜・水曜・木曜は運休 (平成 16 年度)

備 考: 昨年発生した神尾駅構内の修復作業も順調に進み、平成 16 年 3 月に開通予定。また、30 年ぶりに復活した C11190 号機を主軸とし、蒸気機関車に関連した各種イベント (蒸気機関車重連運転等) を計画中。

C11190 号機の復活に伴い、蒸気機関車修繕における写真、記録を整理するとともに、蒸気機関車をはじめとする古い車両を保存する上で重責を担う者のレベルアップに向け、更なる努力をしていきたいと考えています。

問合せ先: 大井川鐵道株式会社  
鉄道サービスセンター  
TEL 0547-45-4112

HP アドレス <http://www.oigawa-railway.co.jp>



C11190 号

★ 西日本旅客鉄道 ★

—JR西日本の取り組み—

☆「SLやまぐち号」運転について

「SLやまぐち号」は、昭和54年8月1日に山口線の小郡駅（現：新山口駅）～津和野駅間に復活運転以来、全国のSLファンから親しまれてきており、本年（平成16年）8月1日をもって25周年を迎えます。

今年は、運転本数を昨年よりも1本多い、延べ129日間を計画しており、運転初日となる3月20日（祝）や、25周年記念日の8月1日（金）などには様々なイベントを計画しています。

☆「SL北びわこ号」運転について

2003年秋に引き続き、“ポニー”の愛称でおなじみの「SL北びわこ号」の運転を、本年（平成16年）2月8日、15日、22日の3日間に実施します。

☆梅小路蒸気機関車館「クリスマスイベント」開催

今年度（平成15年度）は、新企画として、SL「スチーム号」クリスマスバージョンと称し、12月20日から12月25日まで蒸気機関車及び客車にイラストやイルミネーションを施し、運転しました。この期間中は、昨年を大きく上回る約2000人のお客様にお楽しみいただきました。

☆梅小路運転区「カウントダウンイベント」開催

梅小路運転区は大正3年10月、梅小路機関車庫として発足し、本年（平成16年）90周年を迎えることになりました。これを記念するイベントの第一弾として大晦日にカウントダウンイベントを開催し、12月31日の午後10時から1月1日の午前0時30分まで応募当選されたお客様約170名に汽笛吹鳴など同運転区ならではのイベントでお楽しみいただきました。

★ 加悦鉄道 ★

—キハ101号動態化復元—

キハ101気動車は、昭和11年に加悦鉄道が創立10周年を記念して新製し、約40年の間加悦鉄道旅客輸送の主力車の一つとして活躍しましたが、老朽化のため、昭和50年代からは静態保存車として「加悦SL広場」で静かに余生を送っていました。



しかし、創立10周年記念の新造車両であり、さらに両運転台式バケット付半鋼製片ボギー車という珍しい構造をもった車両は国内唯一でもあるということから、敢えて動態化を試みたものです。

◇ 平成3年の大修理

大掛かりな修理はカヤ興産株式会社の手によって、この時はじめて行われました。約8カ月に及ぶ大規模な更新工事を行いました。

◇ 平成14年～16年の大修理

平成14年度からカヤ興産株式会社が修繕を行うとともに、年に数回のイベントの運営や毎月の定例活動で修繕等のお手伝いを行ってきた加悦鉄道保存会が動態化復元を目指してきました。

平成14年3月から始まった修理では、機関部、機関部周辺機器、室内、外観と、大規模に修復を行いました。平成16年3月14日・15日には初めて野外での試運転を行うことができました。



### 修理のようす

動態保存車両は4両（DL3、キハ1両）となりました。

◇カヤ興産株式会社 加悦 SL 広場公式ページ

URL: <http://www.kyt-net.ne.jp/kayaslhiroba/>

◇加悦鐵道保存会

URL: <http://ka8tetsu.hp.infoseek.co.jp/>

### ★ 屋久町 ★

#### —屋久島森林鐵道計画—

計画趣旨：屋久島に現存する森林軌道を改修し、「動く環境教室」として一般に公開し、世界自然遺産として登録された屋久島の自然環境の理解と、屋久杉の切り出しに代表される屋久島の林業史を学ぶ場の提供を目的として、現在、計画を進めています。

保存車両：ディーゼル機関車／5tDL号（1978年北陸重機製）

問合せ先：屋久町 企画調整課

TEL 0997-47-2111

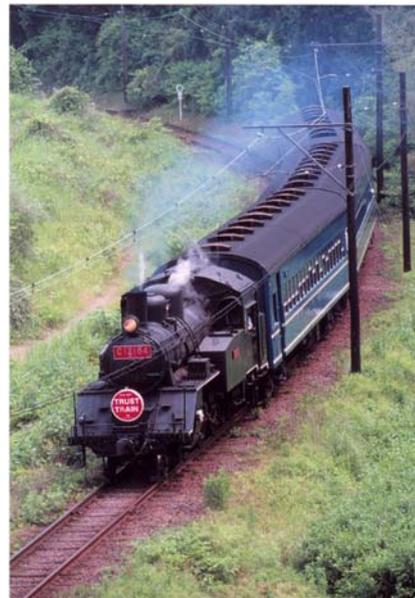


### ★ (財)日本ナショナルトラストトレイン★

#### —平成16年度トラストトレインの運転日—

昨年8月末に起きた大井川鐵道の神尾駅付近の土砂崩れのため、7月12日の運転日を最後に運休していたトラストトレインですが、復旧工事が進み、3月19日より神尾駅構内の片側一線のみ、金谷～千頭までが全線開通し、4月から運転が再開されることになりました。

運転日は4月24日・5月29日・6月12日・7月3日・8月28日・9月25日・10月16日・11月27日（いずれも土曜日）の8回です。運行時間の変更があり、下りは今までどおり金谷駅発12時45分ですが、上りは千頭駅発15時46分と約30分繰り下がります。4月24日に再開されるトラストトレインの運転日には、ぜひ多くの皆さまのボランティア参加をお待ちしています。



赤いヘッドマークのトラストトレイン

(写真：酒井誠)

#### —トラストトレインのNゲージ模型が発売—

大井川鐵道で動態保存しているトラストトレインをモデルにNゲージ模型が(株)有井製作所より発売されました。C12形蒸気機関車とオハニ367形荷台造客車、スハフ43形2、スハフ43形3で、客車の色が青色(オハニは茶色)と茶色

の2種類の編成があります。価格は定価 16,800 円のところ、限定各 5 セットにつき特別価格でお分けいたしますので、ご希望の方は事務局にお問い合わせ下さい。 ☎03-3214-2631 (松本)

### —北陸線電化記念館オープン—

去る 7 月 17 日に北陸線電化記念館がオープンし。この記念館は、日本ナショナルトラスト (以下 JNT) の 7 番目のヘリテイジセンターとして財団法人日本宝くじ協会の助成をもとに JNT が建設したものである。一昨年にオープンしているヘリテイジセンター「長浜鉄道文化館」に隣接するかたちで建てられ、長浜市における JNT のヘリテイジセンターは、2 棟になった。

長浜鉄道文化館が明治期から今日に至るまでの鉄道や舟運等の交通史を中心とした展示であるのに対し、北陸線電化記念館はその名の示すとおり、北陸線の電化、それもわが国初の交流電化に的を絞っている。

そして、その象徴ともいえる本物の交流用電気機関車 ED70 形 1 号を展示。さらにこれまで鉄道文化館の野外に野ざらし状態にあった D51 形 798 号蒸気機関車を ED70 形 1 号と並べて展示してある。いわば、北陸線の交流電化時以降 (昭和 32 年 10 月) とそれ以前の同線で活躍した花形車両 2 両が近代化遺産として静態保存されているのである。

建物の設計は、建築家の吉田桂二氏が当られ、外部からも 2 両の機関車がよく見られるよう、十分な配慮がなされている。木造のトラスを組んだ大きな車庫を思わせるが優れたデザインにより展示館的性格も合わせもっている。もちろん壁面を利用した展示スペースもあり、わが国の交流電化に関する資料として全国の電化状況地図、歴代交流電気機関車の写真等を展示している。また、1 階には、JNT の鉄道資料室、2 階には、目の前を走る北陸線の列車を見ることが出来る展望室とデッキがある。この展望室は英国のヨークにある国立鉄道博物館にあるものを参考に設け、子

供から大人までが、過ぎ行く列車を楽しめるように考えられている。

さて、メインの展示物である ED70 形 1 号交流用電気機関車であるが、昭和 32 年生まれのわが国初の営業用の交流電気機関車で、まさに歴史的車両と言っていいものである。昭和 50 年 4 月に廃車後は、敦賀第 2 機関区 (福島県敦賀市) に野外保存展示されていた。30 年近くに及ぶ展示で風雪にさらされ痛みが激しかった。このたび J R 西日本では、これを松任工場 (金沢市) で完全に修復し、その後、JNT に寄贈してくれたのである。JNT では、すでに保護対象に認定、保護資産として永久に保存することになった。

修理には、時間も費用も莫大な数字になったが、優れた技術とともに ED70 形 1 号の復元を成し遂げた J R 西日本に大いに敬意を表すとともに感謝申し上げる。



北陸線電化記念館開館式にてテープカットを行った



杉浦 JNT 会長と坂田 J R 西日本専務取締役による製造プレートの取り付け

□ 問合せ先 : (財) 日本ナショナルトラスト  
TEL 03-3214-2631 FAX 03-3214-2633

## ★当協会の組織強化について★

昨年9月の総会の際に、「現行では当協会の加盟基準が歴史的車両を動態保存している団体に限られているが、今後静態保存している団体にも加盟を呼びかけ、加盟団体を増やし組織の強化を図っ

ていく」ことが了承されましたので、4月より、鉄道関係の博物館や大手私鉄などにも加盟を呼びかけていきたいと考えています。推薦する団体がありましたら、事務局までご連絡下さい。

## ★英国の保存鉄道を訪ねる旅を企画 —日本鉄道保存協会協力— ★

JR西日本と(財)日本ナショナルトラストが共同で蒸気機関車誕生200年記念の「ヨーク国立博物館RAILFEST2004と英国の保存鉄道を訪ねる8日間」を企画しました。2004年は英国コーンウォール出身のトレヴィシックが世界初の蒸気機関車「ペナダレン号」を走らせて200年を迎えます。その蒸気機関車誕生200年を記念して、鉄道発祥の地であるヨーク市にて5月29日から6月6日までの9日間にわたって開催されるのが「RAILFEST(レールフェスト)2004」です。会場となるのは世界最大の鉄道博物館として知られるヨーク国立鉄道博物館です。館内には1830年に世界初の旅客列車を牽引した「ロケット号(レプリカ)」をはじめ、1938年に世界最高速度203キロを記録した蒸気機関車「マドーラ号」、そしてその横にはJR西日本が同博物館との姉妹提携を記念して寄贈した「0系新幹線」の先頭車両も展示されています。館内にはこれら数々の車両群とともに数千点にも及ぶ貴重な鉄道に関するコレク

ションがあります。

特筆すべきは、多くの車両がいつでも走り出せる形で動態保存されており、本線鉄道と接続された線路を持つ独特の展示スタイルは、世界各地の鉄道博物館に影響を与えています。フェスティバルの期間中「シティ・オブ・トロリー号」や「ロケット号」の複製に乗ることができたり、珍しい蒸気機関車が展示されたり、数々の特別イベントが催される予定です。

ツアーの初め2日間は、この「RAILFEST2004」に参加し、その後、ウェールズの保存鉄道(スノードン登山鉄道・フェスティニオグ鉄道)の著書でおなじみの白川淳氏と一緒にめぐります。今回の参加者だけの特別企画として、2日目の晩はヨーク鉄道博物館スコット館長の主催による館内のステーションホテルでのメモリアルディナーがあります。めったにない企画内容となっていますので、この機会にぜひ、ご参加下さい。詳しくは、別紙パンフレットをご参照下さい。

## ★平成16年度総会について★

平成16年度総会は、九州旅客鉄道株式会社で開催を引き受けていただけることになりました。JR九州では阿蘇山麓を走るSL「あそBOY」の運行をはじめ、昨年8月9日には北九州市門司区のレトロ地区に旧九州鉄道本社屋を利用した九州鉄道博物館を開館させるなど、歴史的車両の動態保存や近代化遺産の保存・活用に積極的に取り組んでいます。九州新幹線の開通で盛り上がりを見せる九州での総会に、ぜひ多くの皆さまの参加をお願いいたします。